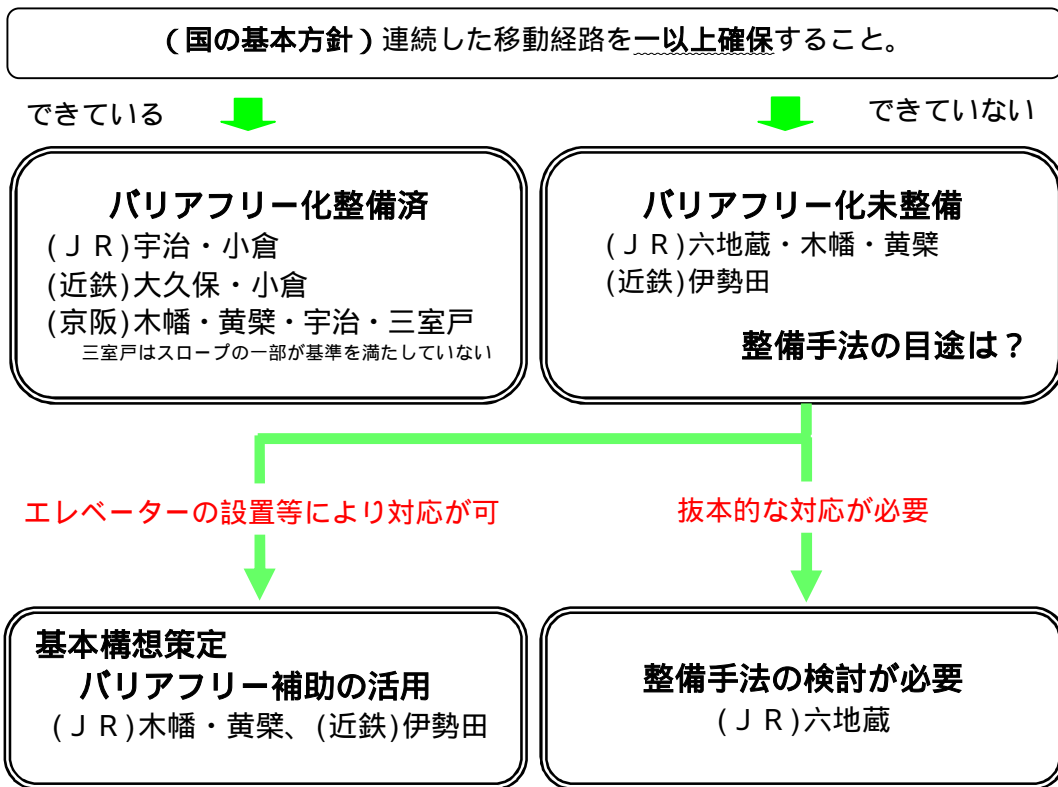
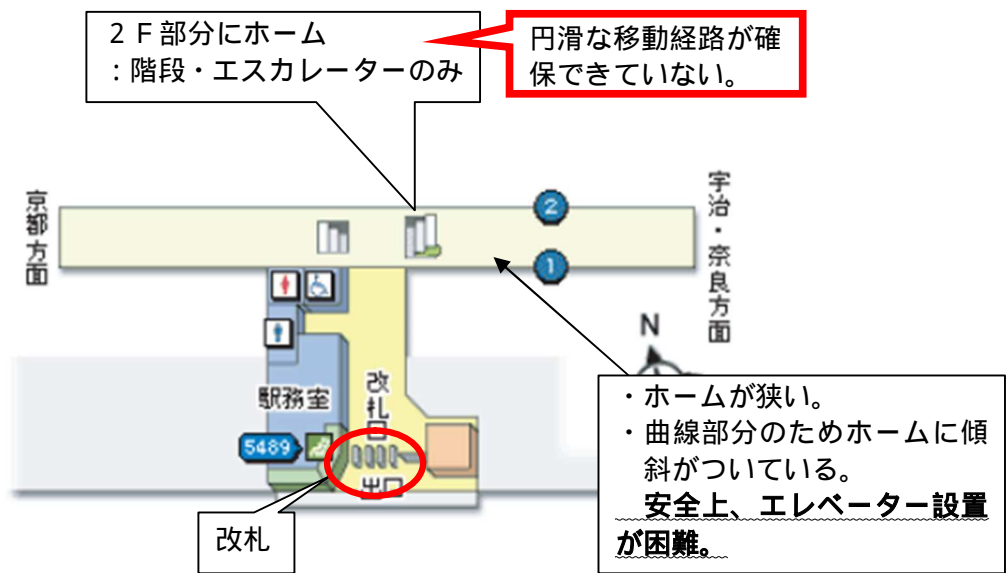


【バリアフリー新法に基づく駅の移動円滑化の考え方】



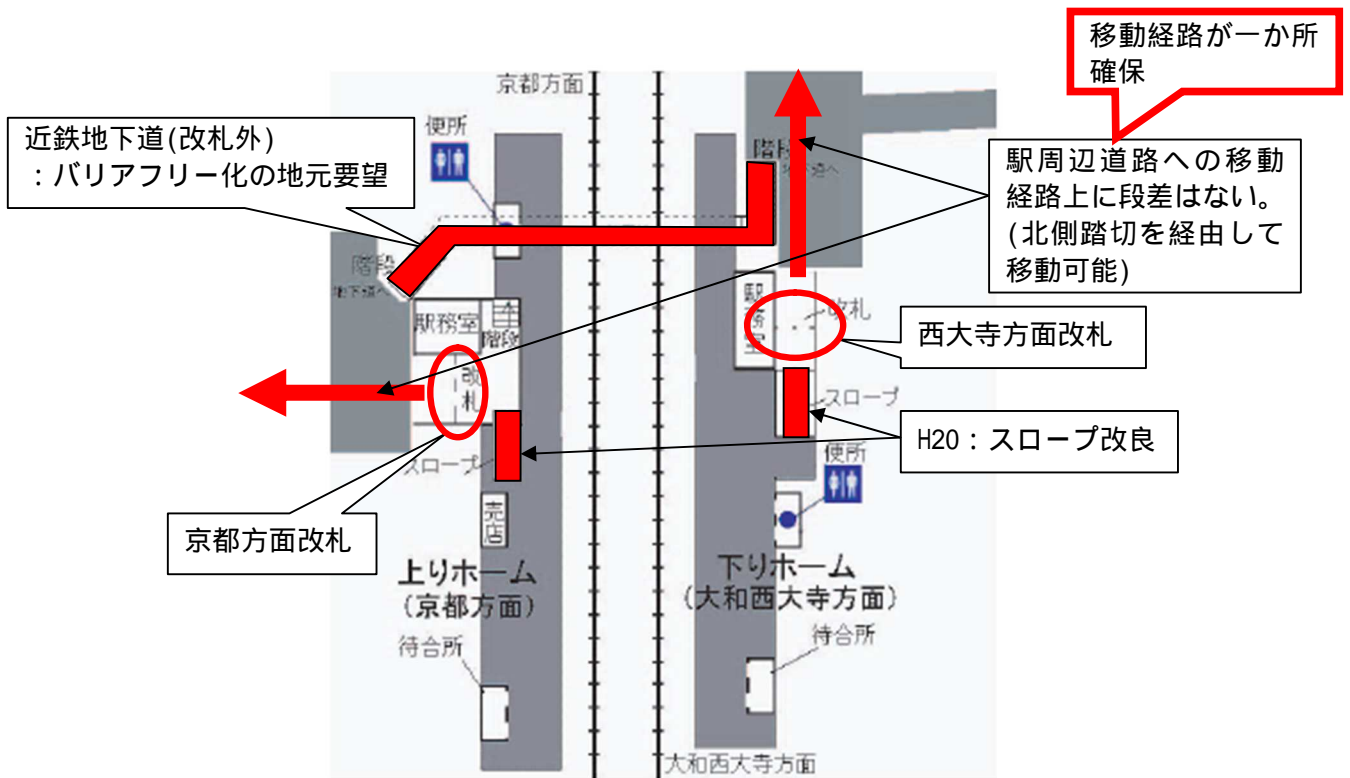
【JR六地蔵駅の場合】



整備手法の検討が必要

・JR複線化事業の中で駅舎移転が予定されており、その中で、エレベーター設置等の移動円滑化を図ることが可能となった。

【近鉄小倉駅の場合】



・バリアフリー化整備済(国のバリアフリー化補助の活用が困難)
交通バリアフリーの枠組みでは対応できないのが現状。



・「駅のさらなる利便性向上を目指す」という考え方が必要。